

■令和3年5月定例記者会見内容

日 時 令和3年5月6日（木）午前11時～正午

場 所 市役所本庁舎第1委員会室

出席者 ・市長、総務部長、企画部長、市民部長、地域創生部長、健康福祉部長、
企画調整課長、健康課長、市長公室長
・酒田記者クラブ10社（朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、河北新報、
山形新聞、荘内日報、NHK、YBC、YTS、TUY）、
コミュニティ新聞社（記者クラブの承認により出席）

■市長発表事項

【酒田市高齢者への新型コロナウイルスワクチン集団接種予約の一時停止及び今後の対応等について】

市長／ご存じのとおり、本市におきましては、5月2日、これは日曜日でしたけども、午前9時から新型コロナウイルスワクチンの集団接種について、予約の受付を開始したところでございます。予約の受付は、コールセンターとそれからWeb申込によりまして、開始をさせていただきましたが、昨日5月5日の午前10時で予定しておりました接種枠に達したために、予約の受付を一時停止させていただきました。

接種を希望されております市民の皆さんに対しましては、大変ご迷惑をお掛けすることになりまして、心からお詫びを申し上げたいとこのように思います。

接種対象者数の想定についてでございますが、資料をご覧くださいと思いますが、65歳以上の高齢者37,800人のうち、接種対象想定者約26,500人、接種率としては、本市の高齢者インフルエンザの接種率を参考として70%を想定して、このような数値をはじき出したところでございます。それから集団接種と同時に進行することになると思いますが、個別接種、これは各かかりつけ医のお医者さんに行って接種をする、この個別接種は、市内の49の医療機関から協力をいただいて、事前の意向調査などを踏まえまして、約17,300人と想定をしたところでございます。

集団接種は、接種対象想定者から個別接種分を除いた9,200人と想定して予定をしたところでございます。今般、この9,200人の枠もですね、一番下の表を見ていただくと分かるんですけど、予定数の一般枠これが8,280、それからバス枠920、この2つに、また9,200を切り分けしております。

今回、一旦予約の一時停止をした分と申しますのは、この一般枠の8,280についてでございます。これがすべて埋まると、このような状況になったために、一時停止をさせていただきました。バス枠についてはですね、ここの表を見ても分かるようにまだ若干ちょっと余裕がございます。これについては、まだ受付をしている訳でございます。

そういったことで、想定外に予約が多かったということで一時停止をしたわけでございますけれども、今後の対応ということで、追加枠といたしまして、集団接種は、9時～5時15分までという時間帯で接種をするんですけども、追加枠として朝夕の接種時間帯の延長ですとか、あるいは接種会場を追加設定することなどによりまして、これまで70%前後

と想定していた接種率を、80%を超える率81%位まで引き上げまして、11%ほど嵩上げできる枠を準備する方向で、現在、酒田地区医師会十全堂と日本海総合病院と調整をさせていただいているところでございます。

5月の下旬からは、国からのワクチン供給も本格化するものとおのこのように考えておきまして、接種を希望される方全員が確実にワクチン接種が出来るように万全を期してまいりたいとおのこのように考えております。

この追加枠について、遅くとも5月の中下旬頃までには予約を再開をしていきたいと、このような方針を今持っているところでございます。朝夕の接種時間帯の延長については、それほど抵抗感は無いかと思うんですけど、やはり、追加会場の設定となりますと、従事される看護師さん、お医者さんの方々の手配ですとか、様々な準備作業が出てまいりますので、若干時間が掛かるかなとそういう思いを持っております。

なお、追加枠の募集につきまして、市民の皆さんへの周知については、決定次第、市のホームページ、チラシ等あらゆる手段を使ってですね、お知らせをしてまいりたいとおのこのように考えているところでございます。私からは以上でございます。

なお、概要については、お手元の資料に整理をしておりますので、どうぞよろしくお願いをしたいと思います。

記者／今回の件は、想定内か想定以上だったのか。

市長／そうですね、想定以上というか、我々ネットとか回線もある程度十分準備したつもりではあったんですけど、先行された鶴岡市の例ですとか、かなり関心が高かった、特に、この地域で感染者も多く出たということもありましてですね、皆さん関心が高まったのかなという思いがあって、これは大変だということで、殺到されたところがあるのかなとそういう思いを持っておりますけれども、この70%という想定は、若干やっぱり甘かったかなというところは否めない、このように考えておきまして、80%少し超える位までちょっと想定を引き上げることで、その分については、どうしても今の状況ですと、今の会場では処理出来ないものですから、時間帯を延長したりあるいは、追加会場を設けたりをすることで、その分の吸収を図ってまいりたいとおのこのように思っております。

今回やっぱり複雑なのは、2回接種だということですよ。基本的に、今回1回目の予約を受け付けましたけれども、実際には2回目も3週間後に想定されているわけで、そういったところの会場とか時間帯とか全部含んでおいての1回目の予約ですので、なかなか今の枠の中、会場の中で、吸収することはなかなか難しいだろうと、これ以上増えるんですね。なので、そこについては、1回接種、2回接種の会場の確保も含めて、少し時間を要する、特に医療従事者の数をどうやって確保するかということもですね、大きな調整事項になってくるとこのように思います。

記者／70%というのはインフルエンザの接種率のようですが、それは、それぞれの市で決めているのか。

市長／それはそうですね。

記者／酒田市は、インフルエンザを参考にして70%にした、ただ酒田、今は鶴岡に移って

いますが、感染拡大が、非常に、急に庄内の方で高まったというのが要因として考えられると。

市長／それもあるのではないかと考えております。あと我々は、個別接種が、49 機関と多かったのですが、そちらに流れるのもあるのかなということも見てみる必要があるのですが、個別医療機関での接種の予約というのが始まっていないので、何とも言えないが、最初の想定としては、個別も含めてなんですけど全体の 70%位かなという、そういう見通しで数値を想定しましたので、そこがちょっと若干低かったかなと、結果的には、そういう思いを持っております。

記者／一般的な考え方なのですが、100 というのは無いのかもしれませんが、用意する分として、高齢者だけは全部打てるような体制で用意するというのは、医療従事者の打つ側の事情があって難しいということなのでしょうか。

市長／そうですね。医療従事者の確保もそうですし、ワクチンの量も関わってまいりますし、ご存じのとおり、国から 65 歳以上は 7 月中に終えなさいと入っておりますので、そういうことも、諸々加味しますと、100%となると様々な条件をクリアするのに相当調整時間が掛かるということがございました。

やはり、急いで接種をするというのが一番の課題だったかと、我々としては考えておりますので、そういう面ではある程度、接種率というものを、想定を 100 ではなく、若干切り落とした率で想定をすることが、いいのかなと考えております。

個別接種がこれから本格化することになっていきますけど、個別接種の受付開始は、5 月 1 日から各医院でやられているようです。そちらの方がどのくらい流れるのか、集団接種への希望者がどのくらい出てくるのかというのがちょっと読めないところがありますので、少しその辺の調整もした上で、追加枠の設定については決めていきたいとこのように思っております。

記者／打ち手ですけど、歯科医師とかいろいろ検討があるかと思うのですが、打ち手自体は市として独自にいろいろお願いできるものなのか。それとも、ある程度この範囲というのが決まっているものなのか。

市長／基本的に、市としてのお願いですから、自由にできるんだろうなと思っておりますけれども。

記者／資格さえあれば、お願いできるのか。

市長／そうですね。国では歯医者さんですとか、いろいろな方が可能だよという話がされているようですが、そちらへは具体的には動きはまだ全然出てないですね。打つてもいいですよという話も来てないですし、こちらでもお願いはしていない。

今のところ、医師会、それから日本海総合病院、ここと連携を取らせていただいております。

記者／酒田は、モデルケースとしていわゆるネットワークとしてありますよね、日本海総合病院と医師会等との。

市長／はい、日本海ヘルスケアネットですね。

記者／ヘルスケアネットを活用するというお考えは今のところあるのか。いろんな幅を広

げるという意味なんですけど。

市長／そうですね。これから 65 歳以下の方々にも今度接種を広げていかなければいけません。その中では、そういう議論もおそらく出てくるだろうし、我々としても調整しなければならぬかなとこのように思っております。

現時点では医師会と日本海総合病院の協力体制が充実しているので、そこまで、手を広げる必要は無さそうだなという思いではありますけども、これはちょっとよく分からない、先ほどの接種率の関係で 70%から 80%以上に上げますけども、更にということになると、しかも、高齢者 65 歳以上だけでなく、それ以下の人達にもという話になるとですね、これはちょっと応援をもらわなければならない場面が全くないかということ、そうは断言できないかなと思っております。

もちろん、ワクチンが国の方で十分供給していただけるというのが大前提としてありますので、そこでちょっと一定程度、歯止めが掛かると、お医者さん、接種される医療従事者の皆さんがいくら確保出来ても、ワクチンそのものが無いのでは、接種できませんので、その辺を総合的に考えて対応していかなければいけないかなと思っております。

記者／ワクチンの予約に関してなんですけど、今 65 歳以上の高齢者の方が予約状況として、ひとまず予定していた 8,280 というのが終わったということなんですけども、電話と WEB 予約もされていたと思うんですけど、WEB と電話の比率とかは分かったりするものですか。

市長／今のところ、まだ分からないです。

健康福祉部長／集計中です。

記者／コールセンターがパンクというか、業務過多というか、電話が繋がらないとか、そういう苦情というのは、ありましたか。

市長／苦情というのは、ありました。最初の日、特に多かったです。ネットが繋がらない、電話にもなかなか繋がりにくいという苦情がほとんどです。

健康福祉部長／2 日から 5 日までの 4 日間で、市役所本庁舎宛の電話、健康課ワクチン対策室宛の電話、来所も含めて 305 件トータルでありました。そのほとんどが、市長が申し上げました、電話、ラインが繋がりにくいということと、予約の取り方をどのようにしたらよいか、それぞれお持ちのスマホだったり、パソコンでどういうふうに入力したらいいのか分からないということでのお問い合わせも多かったようでございます。

市長／20 回線、オペレーターを 30 人と設けて対応したんですけど、ある意味、300 件というのは、意外と少ないというか、もっと混乱するかなと正直な思いはありました。2 日 9 時からということアナウンスしてましたので、一気にダウンと来るのではないかと思ったのですが、300 件位というのは意外と少ないかなと。それも、先程言いました 20 回線、30 人体制を取っておりましたので、そういう面では比較的スムーズに受付が進んだのではないかなという理解はしております。

記者／ネットに繋がらないという話があったようですが、これは集中的なアクセスによるサーバーの方の問題ということなのか。

市長公室長／サーバー自体は全くダウンはしてないですけど、結局、システム上で、入口から次の画面に進むところが、どうもボトルネックになっていたようでということで、ちょっとそこは検証をさせていただければと思います。サーバーが落ちたというわけではございません。

記者／集計もまだこれからということですけども、かなり電話で殺到する、今後一般の若い世代の予約もどんどん始まっていくわけですけども、若い世代であれば、スマホ、パソコンに親しまれていて、電話は20回線用意しているとはいえ、数に限りがあるものではないですか。そのあたり、今後、全年齢、あるいは今回の追加枠からもそうですが、ネット予約の活用とかを呼びかける予定は、あるいは伝えたいことはあったりしますか。

市長／やはり、特に若い世代に対しては、ネット予約というのが効くと思うのですね。それを重視したような形でアピールしていければと思いますし、今検討しているのは、接種する会場とか、接種する時間帯、若い人だとどうしても仕事を持ってますから、やはり土日だけでなく、夜間ということもある程度想定をしなければいけないと思っておりますし、若い人たちが申し込みしやすいような環境を整えていきたい。

その上では、ネットによる、うちはラインでも予約できるようになっていますし、これもネットに繋がるわけですが、そういう意味で、そういった申込システムというものを、もっともっとアピールして若い人からは、電話しなくてもネットで予約できるようなそういった申込を受けられるような体制にしていきたいと思っております。

記者／集団接種は、5月15日から開始予定となっていたのですけれども、予約受付したのは、いつからか。

市長／2日からです。

記者／予約の日程、何日に予約したいというのをするわけですよ。何日分で、何回分あったか教えていただけますか。

健康福祉部長／1回目、2回目のセットで、14回(日)分の組合せ、15分刻みで25回分打って、それぞれの会場で従事するお医者さんの数等が違うので、それぞれ人数は違うんですけど、それぞれの会場に応じた枠で、選んでいただいて予約を取っていただきます。

5月1日号の広報にも掲載させていただきましたが、5月15日から5月30日までの5月は6回、6月は19日、26日、27日の3回、7月は3日、4日、10日、11日、17日の5回ということで広報にも掲載させていただいております。

記者／それぞれ会場によって、人数とかは違うということか。

健康福祉部長／多少差があります。

記者／11%の嵩上げ、接種率を上げると、集団接種の対象となるのは何人くらいになるんですか。

市長／約4,000と見ておけば、間違いはないんじゃないかと思います。

記者／個別接種も含めた数字でしょうか。

市長／含めないでと思っております。集団として、その位のキャパがあるのかなという思

いでおります。

記者／プラス4,000ということ。

市長／それは、バス枠でなく、一般枠として全部当て込んでいければなど、そんな思いでおります。バス枠も意外とそんなに伸びていない。このバス枠というのは、各コミセン会場からバスを使って、それに乗って接種がしたいという人達用です。意外とバス枠が伸びていないということは、皆さん個人的に会場まで来るということですよ。車を使ってだとか、送ってもらってだとか。そういった方々が結構多かったようです。

記者／9,200プラス4,000というのが、今後想定される数ということでしょうか。

市長／そうですね。集団接種としてはですね。

記者／個別接種についてなのですけど、49 医療機関で行うということでしょうか。

市長／広報に全部医院名も公表しています。

記者／バス枠についてなのですが、市内の何ヵ所のコミセンから接種会場まで出るのか。

市長／これは全部ですかね。巡回するので。各コミセンから一台ずつ出るのではなくて、これも広報に載っているんですけど、複数のコミセンを回って拾って歩くという、ちょっと時間が掛かるんですけど、帰りは逆コースを行くわけですけど。

健康課長／コミセンが回りにくい所は、違う公共施設を設定している場所もありますが、基本的に全部の地域を回るようになっています。

市長／バスが出るコミセンまでは、タクシーの初乗り運賃、遠い中山間地の人たちにそれは補助しますよという制度をくっつけている。

記者／コースとしては、巡回して最後に接種会場に来てということ、直接来るよりは時間が掛かってしまうということですね。

市長／そうですね。

記者／バス枠の予約が空いているということなんですけども、これはどうなるのか。

市長／これはですね、10 日前までに入らなければ、一般枠に回すということにしています。

記者／接種率を嵩上げて約80%にすることと言っていますが、この80%の根拠というのはどういうものでしょうか。

健康課長／まずは、現時点で医師会の先生方、日本海総合病院の先生方と調整させていただいて、現在の状況で増やせる数ということになります。具体的に81%に関して根拠があってその数字を目指したというのではなくて、まずは現段階で提供できる枠としてこの程度ということで、計算した数字になっております。

記者／増やせるというのは、この7月中という目標があるということですか。

健康課長／おっしゃる通りです。当初の国の示し方ですと、3月から始まって3か月位の期間でというようなお話もあったわけですけど、今回うちの方は5月中旬から始めましたが、7月の末までというようなことで、かなり期間も短くしなきゃいけないということもあって、そこは医療従事者の皆さんにもご協力いただいて、お願いをして設定をしたというようなことでございます。

記者／市長に伺いたいのですが、一般論としてですけど、接種率は多ければ多いほどいいのかなと素人考えで思いますけれども、7月中という期限を区切られた結果、81%で今のおしりを区切られているということが、かえってネックになっているように思えるのですが、その辺、市長はどう思いますか。

市長／結局、それで終わりじゃないので、65歳以上が終われば、今度、それ以下の皆さんに移っていかねばいけません。やはり希望する方々には、一刻も早く接種をするというのが、今回のワクチン接種のねらいでしょうから、そういう意味では、特に7月に区切られたから、どうかということではないんですね。

ただ、今、急ぐこの65歳以上の人たちの接種期間が短くなればなるほど、集団接種にしても個別接種にしても、医療従事者なり接種する会場の確保というのが大きな課題になってきますので、そこはしっかり我々としても、手を入れていかねばいけませんという思いはありますけれども、あまり、その接種率と、その7月まで区切られたということについては、あんまりそんなに深い認識は、私どもは、持ってない。まず、急いでその体制を組まないといけません。

国の指針に従って、そのための体制づくり、これを地元の医師会や日本海総合病院ですとか、それから関係機関、医療従事者を確保する上でもですね、関係者の皆さんの理解が必要かなと、こんな思いを持っておりますので、その調整のために少しバタバタしましたけれども、国の方針に従って、しっかり7月中には65歳以上を終えるようなそういう体制を組んでいきたいなと思っております。

仮に、100%になれば、かなり会場も、それから医療従事者の確保についても、緊急的に我々動かなければならなくなりますけれども、たぶん、100%は多分ちょっと考え過ぎなんだろうなという思いでおります。

記者／隣の鶴岡市だと85%という接種率ということですけども、85%の人が本当にやるかどうかはわかりませんが、鶴岡市民は85%の高齢者が出来て、酒田市民は81%だとなると、ユニバーサルサービスではないですけど、少し差が出来るわけですが、この辺本来であれば等しく出来るほうがいいのではないかなと、または出来るかもしれませんけど、その辺どうですか。

市長／我々は、81%と先ほど申し上げましたけれども、これであと締め切るよと言っているわけではなくてですね、今の対応としてそれくらいを目途にして一回増やしていきたいなと。ただし、85%だったら、5,670人分くらい打てるような体制にしていかなければいけないし、90%だったら20%増やさなければならぬということになりますので、7,560人対象が増えるということになります。

希望によってはですね、そういう体制も組んでいかねばいけませんだろうなと思っておりますので、先ほども申し上げましたけれども、希望される方には、間違いなく接種できる体制をこれから組みますよということを先ほど言わせていただきましたけれども、状況に応じて、90%になれば、90%に向けた体制をしっかりと組んでいきたいなと思っております。

したがって、追加会場の話をさせていただきましたけれども、90%になれば、もっとま

た確保しなければいけないということも出てまいりますので、それは7月末までの間に、しっかりまたその体制は組んでいきたいなと思っております。

とりあえずは、現段階では81%想定で、まずは調整をさせていただきたいなということで、今協議をしている最中でございます。

記者／こうした11%の嵩上げなど通じてですね、ワクチン接種体制、あるいは接種の結果として酒田市としてどういったところを目指していけますか。

市長／基本的に、11%はあくまで今そういう想定で準備はしますということで、さっきも申しましたように、接種を希望する方全員が間違いなく7月下旬までワクチン接種が出来るように体制を組んでまいりますというのが、我々の方針でありまして、それが80%で済めば80%だし、90%まで掛かるようであれば90%の体制を組んでまいります。

段階的に皆さんの希望状況を把握しながら、希望される方に間違いなく接種できるような体制を組むので、安心していただいということをメッセージとして皆さんにお伝えしたいなとこのように思います。80%だけにあまりこだわられると、80%で済むと理解しているわけではなくてですね、それ以上出てきても、80%を超えても、接種できる体制はしっかりと構築しますということを、市民の皆さんにはお話をさせていただいて、ご安心いただければなと思っております。

記者／飛島の島民への接種についてなのですが、現状ではどういった想定をされているのかという点と、いろいろな機関との調整が必要になってくると思うんですけど、そういった調整というのはどこまで達成されている状況なのか教えていただきたいと思います。

市長／飛島についてはですね、実際、住民登録を持っている方が170人位なんですけども、65歳以上ということではなくてですね、64歳以下の方についても同時に接種をする体制整備を今目指しておりまして、地元も含めて、日程等の調整をしている最中でございます。

これにつきましては、日本海総合病院と、今協議をしております、日本海総合病院の先生方から行っていただいて、年齢差関係なくその住民に全部接種するというその日程を、調整をしているところでございます。

島民アンケート調査をやって、いつがいいかとか、どれくらい打つかですね、接種を希望する人には1回でお医者さんが行った時に、全て接種できるような、日程調整をして、それが決まれば飛島については接種をしたいと、このように思っております。

記者／今、予約の方は始まっていますけども、これは飛島の島民の方っていうのは、予約は出来る状況にはなっているのでしょうか。

市長／それは出来るでしょうね。こっちにいる人もいますからね。こちらで希望する人はこちらで。

健康課長／ちょっと補足しますと、予約開始前にアンケート調査を送っておりますので、そちら（飛島での接種）を優先される方は、当然そちらを選ばれるということで、予約はされないのかなと思っております。

記者／アンケートの集計とか、飛島の方々の接種の時期というのはいつという見込みは分

かっているのでしょうか。

健康課長／連休明け、ちょうど今位に飛島の方で集計をしている予定です。中旬くらいに取りまとめましたら、人数を見て、先ほど市長からありましたように日本海総合病院さんと調整をして、接種の日程を決めていきたいと思っていますところでは。

■フリー質問

【家岸地区への民間風力発電施設計画について】

記者／2つほどお伺いします。家岸にですね、風力発電施設を建設しようという事業者さんがいて、地元の第47区自治会と1対1というか、そういう形で交渉というか、風力の環境影響評価に向けた住民説明会を開かせてくれですとか、そういう形で事業を進めようとしていたという経緯があるんですけども、それで、酒田市の風力発電施設建設ガイドラインというのが、法的な拘束力というのが無いわけですね。

そこが一つ事業者さん側にとってはですね、法的拘束力が無いので、そこは建設が好ましくない区域としている地区なんですけど、あえてそこで風況調査をしてですね、県の土地を借りてですね、そうやって事業を進めようとしていたわけなんですけども、その過程です、事業者と自治会が1対1でやっているわけですね。何日に説明会を開かせてくれとかですね、こうした対応を多分酒田市の方も知っていたと思うんですね。そういうやり取りというのを。

そういったことで、事業者と自治会との間に入って調整をすとか、そういうことをやることってというのは出来なかったのかなというのが一つ。

それと、そもそもガイドラインが法的拘束力が無いので、事業者側からすれば、進めようと思えば出来るんだという論法みたいな、そうしますと今回のことだけではなく、これからのことを考えるとですね、ガイドラインというのが、位置づけというか意味合いというか、その辺がですね、どうもなんかこう曖昧なので、もう少し強化すとか、そういったことは酒田市の方で考えていないのかどうか、この2点をお伺いしたい。

市長／最後の、ガイドラインをもっと拘束力の高いものに強化することを考えてないのかということなんですけど、根拠法令が無いんですよ。これは、多分ワクチンの話もそうなんですけど、私権の制限にあたってきますよね、ある意味。私どもの権限外の話になるので、それを規制するというのがですね、法的な根拠があれば条例化するなりしてですね、規制をするということが可能だと思いますが、現時点ではガイドラインをガイドライン以上の拘束力のある基準に持っていくということについては、ちょっと今のところ考えていません。ガイドラインで十分私どもは機能するというふうに理解をしております。

事前というか両者の間に入って調整できなかったかということにつきましては、基本的に調整してくださいという話があった訳でもなくて、相談、情報については確かに事前に来ていたのですが、ガイドライン上、建設が認められるエリアではないですよという話として、酒田市の意向としては伝えてありますので、それに対して、何らかのアクションがあったかという、双方から無かった訳ですね。

ただ要望書は、20日付で出てきていました。「家岸風力発電事業についてのご報告とご

依頼」という形で47区の自治会長さんから、私に要望が出てきております。これにつきましては、基本的にガイドライン上、我々がこれを認めるということはありませんので、皆さんの意向に沿った形でですね、我々の態度としては取れるので、取り立てて、この要望を受けて何らかの行動を起こすという必要も無いのかなとそんな思いで受け止めておりましたので、特にそんなに問題意識は持って無かったところでした。

おそらく、土地は県の土地ですよ。県の土地を借りてやられている、もう一方で県が当事者として絡んでおりますけれども、酒田市としては風力発電ガイドラインに沿ったエリアでは無いので、好ましくはないということは明確に意見としては伝えておりますし、今後、知事から何らかの形で、もし風力発電事業をやるという話になった時に、意見を聞かれる訳です。その時も、このガイドラインに沿ってしっかりと酒田市としては好ましいエリアではないということで、明確に私の意見を伝えられますので、取り立ててこれについてはですね、これ以上ガイドラインの規制を強化するとかは、考えていないところであります。

記者／調整というのは、そのガイドラインではできなかったということですか。

市長／調整するという事までは、ガイドライン上たぶん書いてない。

市民部長／書いていないが、完全に建てられない区域になっていきますので、調整する区域でもないということですので、調整しておりません。ただ、業者さんの方には、環境衛生課からになりますけど、一年位前からおいでになっていますけど、その時点からこの区域は建設の出来ない区域ですと、建てられない、好ましくない区域ですということは、再三、申し上げてきたと。

記者／地元は、1対1でやり取りしているんですよ。地元の自治会にすれば、例えばですけど、事業者さんが提出した今後のスケジュールとかがあるわけですが、そうすると、今年の7月にですね、酒田市とガイドラインの見直しを行うと書いてあるわけですよ。

だから、そういうふうに事業者さんが書いてくるとですね、事情を知らない方、住民側にすれば、酒田市もそれに同意しているのかというふうにとられかねないわけです。そういうふうな書いてあるということは。

ですから、心配して酒田市の担当の方から来ていただいて、説明をしてもらっているはずでした。地元自治会は。

そういうことが起きかねないわけですよ。今後とも。例えば、今回は庄内地方の地元の事業者さんですけども、例えば県外からきた事業者さんであれば、その辺は、分からないわけですよ。どういうことをするかというのは、どういう進め方をするかというのは。

なので、そこら辺は間に立ってですね、きちっと住民の方が誤解を生まないように、きちんと三者で一つのテーブルに付いて、話し合うとかですね、説明を受けるとか、そういうことは出来なかったのかなということですよ。

市長／まあ、出来なくはないでしょうけど、そういう問題提起は無かったですから。事務方が聞いていたかは分からないですけど、ガイドラインの見直しをするという話は、今初めて聞きましたし、それは相手方が勝手に書いた話ですよ、基本的には。

記者／でも、住民側からすれば、分からないわけです。

市長／自治会の皆さんが、そういう話をこちらに伝えてもらえればですね、特に、事業者側にはっきり言ってくれと、いう話だと思うのです。そこについては、はっきり申し上げていきますので、私どもは、ここはもう認められる地域ではないと断言していますので、それでも、少し両者の間に齟齬があって、市が中に入るといふことであれば、いくらでも中に入りますけども、入ったとしても我々が言うことは、事業者に対して、そこには建てられないのだから、変なことは言わないでくれといふことくらいしか言えませんよね。

そういう意味での調整が必要であれば、いくらでもさせていただきたいと思ひますし、担当が実際自治会に行っているといふことであれば、一定程度その段取りは組んでいるんじゃないかなと思ひますけど。

市民部長／補足しますけど、自治会長さんも相談に来られたといふか、こういう案件で地元に入ってきていますよといふことで来ていましたので、その時点では建てられない区域で、こういう相談があったけれども相手方にはこういう事情、ガイドラインがしっかあつて、ここは建てられない区域ですといふことを、何度も申し上げたといふことで、確かに三者一体となった説明といふことは、しておりませんでしたけれど、それぞれの事業者さん、自治会さんが来た時には、丁寧にできない理由については説明させてもらっていたといふことで、結果的には調整をしていたのかなと我々は思っていた訳ですけど、たまたま三者一体となった形での説明といふのはしていなかったといふことでございます。

こちらの思ひは、双方に伝わっていたといふように理解しています。

市長／ある意味調整させていただいていたと、だから地元の自治会の皆さんにね、我々はこう説明しているんだといふことを、逆に言うとお伝えさせていただいて、安心していただくと、何もそこは我々信頼して、要望もそうだけど、同じスタンスで、今回の家岸の風力発電については立ってますので、ご安心くださいといふことをしっかり伝えていただきたい。

私どもは、担当者を通じては伝えているはずですので、そういう意味ではマスコミの皆さんからもそういった意味合いで情報を流していただくことより徹底されるのではないかなと思ひます。是非そこは協力をお願いしたいと思ひます。

私どもは、決して曖昧な立場を取っているわけではなくて、あそこはNOだといふことをはっきり言っていますので、そのことを自治会の方にも、担当部局を通じて伝えていただいていますので、そこは特に改めて、ことさら調整をしなければならぬ段階に今あるといふ理解はしていませんので、そこはよろしくをお願いしたいと思ひます。

【日本海総合病院の新型コロナウイルス対策病床使用率について】

記者／新型コロナについてですが、日本海総合病院のコロナ病床の入院率が、7割を超えている状態ですが、この辺の受け止めは。

市長／やはり、この庄内地域でクラスターが出たりしてですね、少し感染者が拡大いたしました。やはり病床が埋まるといふことは、緊急を要する方への対応が出来なくなるといふことになりますので、重く受け止めております。

したがって、我々、この地域ですねこれ以上感染拡大しないように、感染状況が収まるようにですね、地域を挙げて取り組む必要があるとこのように思っております、たまた

ま鶴岡市から多く出ていますけども、酒田市の生徒さんからも出たりしておりますし、やはりこの庄内地域は一体となった生活圏域ですので、地域全体として感染拡大防止に向けて取り組む必要があります、三密の回避を徹底するだとかですね、マスク、手洗い、こういったことについては、これまで以上に、全2市3町ですね、住民の皆さんから協力をいただくようにアピールしていく必要があるだろうなと思っております。

日本海総合病院の病床率が非常に高くなっていることについては、本当に危機感を持って受け止めておりまして、ここは私も鶴岡市長さんと一緒に情報交換しながら感染予防の取組みを強化していきたいということで、意識を共有しておりますので、一緒に頑張っていきたいなと思っております。

【東京オリンピック聖火リレー、ホストタウンの対応について】

記者／東京五輪・パラリンピックが近づいてきましたけども、来月、酒田市内でも聖火リレーがあると思いますけど、それに関して伺いたいのですけど、聖火リレーは酒田市内では予定通りやるのかということと、ニュージーランドのホストタウンのスケジュールというか今後どうなるのか、分かりましたらお願いします。

市長／聖火リレーについては、予定通りするというところで今準備を進めているところでございます。

地域創生部長／ニュージーランドのトライアスロンチームの方からは、是非酒田でキャンプを行いたいという回答をいただいております。また、状況が少しずつ変わっておりますので、変異ウイルスの関係もございまして、なお確認をしながら、進めさせていただければなと思っております。

記者／いつ、いらっしゃって、どういうことをやるのかというのは、だいたい分かっているのですか。

地域創生部長／だいたいは、決めておりますけども、ちょっと今、何月何日という所まではお話出来ませんが、後ほど資料でお渡しさせていただきます。

以上